2017-18年度
国際ロータリー会長
イアン・ライズリー

Weekly Report Niigata

ロータリー：
変化をもたらす

国際ロータリー
2017-18年度テーマ

2017～18年度
新潟ロータリークラブ会長
徳永　昭輝

新潟RC　12月第　1例会（2017.12.5）№3210

(1)　「君が代」斉唱
ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱

(2)　徳永　昭輝会長挨拶

先週の週末には雪が降り、日曜日は珍しく冬晴れとなりましたが、紫雲寺ゴルフ場は雪のためクローズドでプレイが出来なかった方もいたのではないかと思います。これからは新潟特有のどんよりとした天候が続くことになりますが、今月は、疾病予防と治療月間です。新潟市内でもインフルエンザがはやり始めています。体には十分注意して頂きたいと思います。

今日は、年次総会です。例会が終わり次第総会となります。よろしくお願い致します。

会長挨拶はやめようかと思いましたが、不眠と生活習慣病について話をさせて頂きます。

新潟はこれからどんよりとした空の季節となります。冬は寒い、日照時間が少ない、乾燥しやすいといったことから寝不足になりやすくなります。最近「不眠」は生活習慣病に大きく関係していると言われています。

以前から、不眠は心身症と関係していると言われていましたが、最近は生活習慣病の予防・改善に「睡眠が大きく関係している」という報告が多くあります。久留米大学医学部精神科教室、内村直樹准教授は、糖尿病・高脂血症・高血圧症といった生活習慣病を持つ人は持たない人に比べて不眠の人が33.1%と26.6%と多少多く、男性より女性では生活習慣病を持つ人が、より睡眠の質が劣っていた。この研究を裏付けるような研究結果が、1999年「Lancet」に掲載された。18歳から27歳までの健康な男性11人で、4時間睡眠を6晩実行（不眠不足状態）したところ、朝食後の血糖値が平均115から135へと上昇、その後、12時間睡眠を6晩行ったところ、側後血糖が元に戻った。インシュリンのコントロールを悪化した状態にすると血糖値が上昇したという報告です。アメリカのコロンビア大学の研究報告:32歳―59歳の中年層で高血圧発症率の比較を比較したところ、睡眠時間7―8時間；12%、5時間以下の人；24%と2倍の発症率であった。シカゴ大学医療センターの報告；糖尿病患者を対象に、睡眠が正常なグループと睡眠の質が低いグループを比較したところ、インシュリン抵抗性が82%も高かったと報告しています。

～睡眠不足と高血圧・糖尿病との間に、

インシュリン抵抗性が介在している～

インシュリン抵抗性とは、インスリンの分泌はあるのに効果を発揮できない状態で、インスリンの効果が見られない状態になると、さらに膵臓からインシュリンが分泌され、代償性高インスリン血症となり、血圧上昇に関係するレニン・アンギオテンシン系や交感神経活性化、腎臓にナトリウムが貯留されやすくなり、複合的な作用によって血圧が上昇し、動脈硬化、心臓病、脳卒中のリスクが高くなります。

睡眠不足を解消するために、①枕の固さの等を工夫したり、②昼間に運動する、寝る前のストレッチ、③夜遅く食べない、④寝室の照明を暗くする、⑤入浴するなどの工夫をすることも大切です。睡眠の基本条件は、①体温の低下、②睡眠物質；メラトニン（睡眠を誘うホルモン）の分泌が関係します。夜になると体温が低下し、脳の温度を下げ、脳を休ませます。睡眠の前半は脳の休息、後半は体の休息と言われています。睡眠物質のメラトニンは夜間に分泌されますが、昼間、運動や散歩で太陽の光を浴びると分泌されやすくすると言われています。メラトニンの原料となるトリプトファンは、バナナ、卵、魚、大豆（納豆など）、赤みの牛肉、チーズ、たらこなどに多く含まれています。

4―6―11の法則；睡眠は、睡眠物質の分泌、脳の眠気、深部体温の3つの生体リズムで成り立っています。菅原洋平（作業療法士）は、①起床から4時間以内；朝起きたら窓辺で光を浴びる、②起床から6時間後、ランチの後には10分間だけ仮眠する、③起床から11時間後、背筋を伸ばして仕事にラストスパートするように勧めています。睡眠の質を上げる3つのコツとして、①「足首を温める」；レッグウォーマー、②頭を冷やす；仕事のこと、大事な要件など考えることが「脳の深部体温」を上げるので氷嚢などで耳から上の頭部を冷す、③入浴後、深部体温が高い状態で布団に入らない、早めにお風呂に入り、1時間リラックスした状態で布団に入る。

～二度寝しても、睡眠時間がバラバラでも、

起床時間を　そろえることが大事！～

①寝る時間がバラバラな人；1 日に 1 カ所必ず 10－15 分寝る時間をつくること（アンカースリープ）

②寝だめしたいと思っても、いつもの時間に一度起きて光を浴びて、カーテンを開けたまま寝るようにする。

③室温は 20 度、湿度は 50%、寝室は暖光色に

メラトニンホルモンをつくるのは副腎です。ストレス・慢性的睡眠不足は副腎に疲労が蓄積します。

早寝・早起き・規則正しい食生活、バランス良い和食（トリプトファンが多い食材を取る）

より良い睡眠で、高血圧・糖尿病といった生活習慣病を予防しましましょう！

(3)　米山奨学生
ソド　チャンドマニチメグさん奨学金贈呈

(4)　３分間スピーチ

・清水建設㈱新潟営業所所長　清水　康次郎君

・白勢商事㈱社長　　白勢　仁士君

(5)　１００%出席バッチの贈呈

坂井　賢一君　　４年　山本　正治君 23 年

(6)　誕生日お祝い贈呈（１３名）

(7)　結婚記念日お祝いの紹介（３名）

(8)　同好会報告

吉田料理研究会幹事より、第23回料理教室ご案内

12月22日(金)18:00～20:30　新潟調理師専門学校　参加費3，500円（アルコールのご用意あり）

(9)　各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(得永　哲史委員長)

本間　　彊君

米山奨学会寄付発表(白勢　仁士委員長)

本間　　彊君　　新田　幸壽君

宇尾野　隆君　　吉田　和弘君

福地　利明君

青少年育成基金寄付発表（小田　　等委員長）

本間　　彊君　　塚田　正幸君

小飯田　澄雄君　矢野　達史君

山田　隆一君　　小田　　等君

内山　　清君

(10)　ニコニコボックス紹介（八島進副委員長）

・坂井　賢一君　11/30 職業奉仕委員会出前授業を事業創造大学院大学で行いました。講師には SMBC 日興証券早田支店長より IPO 新規株式公開について講義していただきました。学生の皆さんから真剣に聞いていただきました。早田支店長、仙石学長、有難うございました。

・仙石　正和君　先週、11/30 事業創造大学院大学における、新潟ロータリークラブの出前授業に SMBC 日興証券早田支店長にお越し頂き新規株式公開の最新のお話をいただきました。担当の坂井さん、若杉さんにもお越し頂きご挨拶いただきました。有益な講義に心から感謝です。留学生、日本人学生からも質問が出ました。お忙しい中、ありがとうございました。

・小飯田　澄雄君　結婚記念日のお花ありがとうございました。夫婦でニコニコしました。又、今日、野鴨を食べる会、参加される方は宜しくお願い致します。午後5:00イタリア軒よりバスを出します。

・安野　克彦君　先日、結婚記念日のお花を頂きました。良く見ると札がついており、花言葉が「思いやり」とありました。今後は妻に思いやりをもって接したいと思いニコニコします。

(11)　年次総会開催

(12)　１２月　５日例会の出席率　７８．６５　％

会員数　９４名（出席免除会員　８名）

出席者　７０名（出席免除会員　３名を含む）

（2 週間前メーク後　８８．８９　%）

１２月１９日の例会予定

卓話「子宮頸がんと妊娠」（仮）

新潟大学医学部産科婦人科学教室教授　榎本　隆之氏

１２月５日　理事会報告　出席者 11 名

１．年次総会について
　本日の例会に於いて開催する
２．松本英明君の退会届＝承認
　29 年 11 月 15 日付退会届
３．次年度地区役員推挙依頼について＝承認
・２０１８-１９年度川瀬ガバナー年度米山記念奨学委員会委員長に　宇尾野 隆君
４．１２月のプログラム=承認
12 月 5 日　年次総会開催
12 月 12 日　会員スピーチ「国立大学の現状と新潟大学」新潟大学　副学長　坂本　信君
12 月 19 日　卓話「子宮頸がんと妊娠」（仮）
新潟大学医学部　産科婦人科学教室
教授　榎本　隆之　氏
12 月 26 日　卓話「My ROTARY 登録例会」
地区クラブ奉仕委員会
クラブ戦略計画推進委員長　大澤力氏
（新潟西RC）
※山本理事より　12/19 の卓話の演題について質問あり、徳永会長より演題は（仮）であるが内容については、マスコミに取り上げられた等違った角度の卓話となる見込みの説明あり
５．その他
①ミャンマー医療支援の件
　先方の国情から、ただ単に寄贈では難しい様子。先方から要請をもらう等、輸出入について、注意が必要となっている様子。詳しくは本日の例会にて宇尾野前会長より発表がある。
②植樹の件＝石川役員より
現在新潟市中央区役所建設課に相談している、3 月中旬に西大畑公園へ１～２本程度植樹が可能の見込み、樹木については、ハナミズキ・ヤマボウシを予定。標柱については木製が良いと思われる、このケースであると予算は 20 万円程度
（山本理事）地区の植樹と重ならないか。→地区へ事前に届ける
（高橋理事）植樹の本数が足りないのでは→①医療福祉大の別途計画あり、一緒に取組む事を検討する②明訓高校（グランド）も候補にできるのでは③新年会の件：・浪江ロータリーとはどのような交流を考えていくべきか？
案内をしたが、日程が合わず欠席となる。観桜例会時に再度案相をする（徳永会長）
④報告事項：事務局員賞与支給
　例年通り 12 月第一金曜日に支給

新潟ロータリークラブホームページアドレス
http://www.niigatarc.jp/

年　次　総　会　開　催

1）総会の成立

・徳永　昭輝議長（会長）＝クラブ定款第6条第2節、クラブ細則第4条第1節に基づき年次総会を開催いたします。

・織戸　潔幹事事＝会員数94名のところ70名の出席です。クラブ細則第4条第3節により過半数の出席があり、定足数は充足されており総会は成立しました。

2）議案説明

・徳永　昭輝議長（会長）

　議案第1号「次年度会長の指名・選出」＝確認

　議案第2号「次々年度(2019～　2020年度）会長（次年度会長エレクト）の選出」

　議案第3号「次年度役員、理事の選出」

　議案第4号「次年度監査役の選出」

　以上4議案です。

3）議案第1号「次年度会長の指名・選出」＝確認

・徳永　昭輝議長＝議案第1号「次年度会長の指名・選出」です。

　クラブ細則により、若槻　良宏君を次年度の会長として昨年の年次総会においてご承認をいただきました。改めて報告いたします。それでは次年度会長　若槻　良宏君にご挨拶をお願いいたします。

4）次年度会長（会長エレクト）若槻　良宏君あいさつ

新潟ロータリークラブの次年度会長に指名されました若槻良宏です。歴史と伝統のある新潟ロータリークラブの次年度会長にご指名いただき、大変身の引き締まる思いでございます。重責が務まるか大変不安な気持ちで一杯ですが、精一杯務めさせていただきます。次年度は、年度を跨ぐ複数のプロジェクトが予定されています。まず、現在進めているミャンマーの医療支援プロジェクトについては、現年度と連携して継続的に対応していきたいと考えております。また、次次年度（2019年～2020年度）は新潟ロータリークラブ創立80周年になりますので、記念式典・記念事業を準備するためのプロジェクトチームを立ち上げて取り組むことになります。さらに、社会奉仕事業についても、プロジェクトチームで地域社会のニーズなどを踏まえて検証を進めていく予定です。現年度、次次年度とも連携してこれらのプロジェクトに取り組んでいきたいと考えております。ロータリークラブは今から100有余年前に青年弁護士のポール・ハリスにより設立されました。当初は親睦が目的であったとのことです。その後、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕が加わり、現在に至っております。このようにロータリーの理念は時代とともに拡大、変容しております。いずれの理念も大切ではありますが、その中でも、私はロータリーの原点である親睦を一番大切にしたいと考えております。会員同士の友情や相互の信頼があってこそ、奉仕の理念を実践できると考えるからです。良く学び、良く遊び、楽しい新潟ロータリークラブを次年度も会員の皆様と一緒に作っていきたいと思います。知識や経験も十分ではない私にとって、役員・理事の皆様はもちろんのこと、会員一人一人の皆様の力が頼りです。皆様のご指導、ご支援、ご協力をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

5）議案第2号「次々年度会長（2019～2020　年度）＝次年度会長エレクトの選出」

・徳永　昭輝議長＝次に議案第2号「次々年度会長（2019～2020年度）＝次年度会長エレクトの選出」を行います。　クラブ細則により、指名委員会を設置、指名委員会を開催いたしました。その結果を指名委員長に代わり報告致します。

・指名委員会（柴田　史郎　委員長）＝指名委員会では「2019-2020年度会長候補」に山田　隆一君が全員一致で指名（推薦）されました。ここで　山田　隆一君の「ロータリー歴」を紹介いたします。

「山田　隆一君のロータリー略歴」

1995年3月28日　入会
1996～97　IA委員長
1997～98　副幹事
1998～99　理事　幹事
1999～00　役員　会計
2000～01　米山奨学委員長
2001～02　理事　新世代奉仕委員長
2002～03　青少年交換委員長
2005～06　IA委員長、ライラ委員長
2006～07　理事　新世代奉仕委員長
2007～08　広報委員長
2008～09　役員　幹事
2009～10　役員　会計
2010～11　理事　社会奉仕委員長
2012～13　理事　職業奉仕委員長
2014～15　青少年育成基金管理委員長
2015～16　プログラム委員長
2016～17　理事　国際奉仕委員長
2017～18　副SAA

地区関係
2004～05　地区副幹事（社会奉仕・新生代委員会担当）
2011～12　社会奉仕委員会担当幹事
2017～18　職業奉仕委員長
入会以来100%出席会員

～全員拍手で承認～

6）次次年度会長山田　隆一君挨拶
指名委員会より次々年度会長候補となり今ほど信任頂きました山田です。過分な紹介をありがとうございます。先日、と言っても 10 月の中旬頃ですが柴田指名委員長より夜、自宅に電話がありました。私はちょうど風呂に入って頭を洗っていて出れなかったので折り返し電話したのですが…。家内が「ロータリーの柴田さんからお電話…」ということで、私は略歴にもあるように過去クラブの幹事を二回やってますからクラブ運営の年間のスケジュールはだいたい頭に入っています。この時期に柴田指名委員長から電話で、ちょっと真意とは違って申し訳ありませんが嫌な予感が致しました…。折り返し電話しますと柴田委員長は「ロータリーについての大事な相談があるから速やかに得永会長と一緒に会ってくれ」ということでした。私は率直に「会長の件でしょうか…」とお話ししたら「そうだ」ということで、実はその電話では私はいろいろな経緯があり推薦はお受けする覚悟はしました。一応その電話では見栄をはって「では明日お会いするまで考えさせて頂いて…」みたいにお答えしたような気がします。と言いますのも、会社も厳しいし、家庭では家内はロータリーに対して冷たいし施設にいる認知症の母の顔や 96 になる親父の顔が走馬灯のように浮かびまして更に次々年度は新潟クラブの80周年という節目の年になります。柴田委員長にお会いして推薦を受けるとはお応えしましたが力足らずは自分が一番解っております。只、こうして皆様から信任頂く事は私にとって身に余る光栄な事ですしやりがいのある事と思います。これから次々年度再来年の 7 月までは一年と7か月ありますから、自分でも精進努力して皆様や得永会長、若槻次年度会長から勉強させて貰って準備するようにしますので今後のご協力やご指導をよろしくお願いします。
7）議案第3号「次年度の役員、理事の選出」
・徳永　昭輝議長＝次に議案第3号「次年度役員、理事選出」についてであります。「指名委員会」に代わり報告致します。
　・指名委員会（柴田　史郎委員長)=指名委員会では「役員候補7名」を「理事候補7名」を全員一致で　指名（推薦）致しました。＝別表

～全員拍手で承認～

8）次年度の役員、理事「当選」の宣言
・徳永　昭輝議長＝以上をもって次年度の役員、理事の「当選」を宣言いたします。
9）次に議案第4号「次年度監査役の選出」であります。細則第7条財務第3節「現会長は年次総会において2名の次年度監査役を指名し承認を得るものとする」により次年度監査役に敦井　栄一さん、細野　義彦さんを指名(推薦)致しました。

～全員拍手で承認～

10）閉会

2018～19 年度新潟ロータリークラブ理事・役員

役員・会長	若槻　良宏
役員・会長エレクト	山田　隆一
役員・副会長	小山　楯夫
役員・幹事	大澤　　強
役員・会計	織戸　　潔
役員・S.A.A.	石川　治壱
役員・直前会長	徳永　昭輝
理事・クラブ奉仕Ａ委員長	石本隆太郎
理事・クラブ奉仕Ｂ委員長	竹石　松次
理事・職業奉仕委員長	鈴木　滋弥
理事・社会奉仕委員長	佐藤　紳一
理事・国際奉仕委員長	宇尾野　隆
理事・青少年奉仕委員長	山本　正治
理事・ロータリー財団委員長	高橋　秀樹

監査役　敦井　栄一　細野　義彦

2017 年 11 月報告書

2013-2014 年度グローバル補助金奨学生

イリノイ大学大学院アーバナシャンペーン校博士課程在籍

麸沢　美裕

早いもので、2013 年 8 月からイリノイ大学大学院に入学し、今年で大学院 5 年目となりました。当初、大学院から合格通知をもらったときは、non-thesis option の修士コース（研究、卒論を書かずに修士号を取得できるが、莫大な授業料を払わなければならない）のみの合格で、嬉しいながらも金銭的な不安が非常に大きかったように思います。しかし、入学前には新潟ロータリークラブの皆様からのご尽力のおかげでグローバル補助金を受給させていただけることが決まり、また、入学後 9 か月後には thesis option の修士コースに移り研究ができ授業料の免除（そしてアメリカでは研究をすると給料が発生します）が決まりました。ハラハラすることもたくさんありましたが、こうして現在も生き延びています。私がこちらでの大学院生活を始められたのは新潟ロータリークラブの皆様のお陰です。改めて、御礼申し上げます。

研究について: 現在の研究室に入ってから4年目となりました。修士課程の途中から始めたプロジェクトを今も引き続き行っています。テーマは、水中の病原体がサラダ野菜の栽培中にどのように汚染し、食中毒リスクをもたらすか、という研究です。このテーマは野菜生育に必要な水がウイルスなどで汚染されていた場合、どのように食品衛生に影響するかという、私が所属する環境工学では割と新しい、ホットなトピックです。レタスやトマトなどのサラダ野菜は、非加熱のまま消費されるため、病原体が付着していた場合、食中毒リスクが一気に高くなります。修士課程から始めたこのテーマですが、昨年修士論文をまとめて Applied an Environmental Microbiologyという環境工学の論文誌に出版したところ、表紙に選ばれましたので、この場をお借りしてご報告させていただきます(図 1)。

(図 1) 修士論文をまとめた論文が掲載された号の表紙に選ばれました。実験に使った、葉野菜ケールの写真です。

学会について: アメリカでは夏は学会の季節です。この夏はアメリカノースカロライナ州で行われた水生物学会と、ミシガン州で行われた環境工学学会に参加しました。ノースカロライナの水生物学会は、国際学会で、日本からも多くの方々のご参加がありました。東大、京大の教授陣をはじめ、私の北海道大学工学部時代の指導教官の参加もありました。私とラボメイト（同研究室の友達）は、東大、京大の大学院生の方々と仲良くなり、良いインタラクションができました(図 2)。日本の研究が活発な様子をこの学会を通して知ることができ、嬉しく思いました。また、この春にはイリノイ大学主催の環境工学シンポジウムが開催されました。ロタウイルス汚染されたサラダ野菜の感染リスクについての発表をしたところ、ベストプレゼンテーション賞を受賞することができました。私はネイティブスピーカーではないですし、アメリカに来るのも大学院からと決して早くなく、英語には自信がなかったのですが、この経験から、ネイティブじゃなくても自信を持って発表することが大事だと思えるようになりました。

(図 2) ラボメイトと日本の大学院の学生さんたちと撮った写真です。日本の先生方にもお会いでき、良い学

新潟大学の短期留学のお手伝いについて: 昨年と今年の 2 月から 3 月、新潟大学から一か月短期でイリノイ大学に英語研修に来られる（主に）学部生さんたちのお手伝いをしました。キャンパスツアーをしたり、研究室を見せたり、レストランに一緒に行ったりと簡単なことばかりですが、新潟の元気な学生さんたちを見て私も多くの刺激を受けています。短期留学中だけでなく、彼らが日本へ帰国してからも今後の研究や進路のことについて質問を受けたり、良い関係を築けました。来年もぜひ参加したいと思っています。

ティーチングについて: 昨年から研究と合わせて、長らくティーチングアシスタントをしています。ティーチングアシスタントとは、教授が受け持つ授業の課題や試験の丸付けをしたり、オフィスアワー（課題などの質問の場）に出席したり、教授が不在の際代わりに授業をしたりします。この秋学期、初めて授業を教授の代わりに 2 回行いました。学部生 3 年生向けの、基礎環境工学の授業です。講義をスムーズに行うのはこんなに難しいのかと実感しました。また、自分にとっては当たり前のコンセプトを、この分野を習った経験がない学部生に教えるのは大変でした。しかしながら、大学院入学時のことを考えると、自分が教授の代わりに講義を行う日が来るなんて思ってもみませんでした。良い経験ができました。

授業について: 日本では博士課程では授業単位はほぼ必要ないのかもしれません。しかし、イリノイ大学の博士課程は多くの授業を取らなければいけません。アメリカの大学、大学院の授業は非常に負荷が大きく(内容が多い、課題が莫大な量、授業日数が多いなど)、研究との両立が大変です。一方、非常に勉強になる授業が多く、自分の研究テーマ、またはテーマ以外の授業を取ることで、視野を広げるのに非常に有益です。過去に勉強になった授業としては、食品分子生物学、ウイルス学の授業があります。今学期は毒性学の授業を取っています。The dose makes the poison(服用量により毒であるかないかが決まる)のコンセプトや、化学物質を摂取した際に細胞内でどのような反応が起こり、防御反応につながるのか、またダメージを受けるのか、などを学んでいます。来学期は免疫学の授業を取る予定です。

最後に: シャンペーンもこの週末で一気に冬の様相になりました。今週木曜日はサンクスギビング(感謝祭)です。私は来週 28 日に博士課程の中間試験(口頭)があるため、研究計画書執筆と口頭発表の準備の追い込みに入っています。この試験に合格できれば、一年後には博士課程卒業となります。貴財団の温かいご支援に改めて深く感謝申し上げるとともに、今後とも勉学・研究に励んで 参りますので今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

近況報告書

2017 年 11 月 25 日

遠藤　悠

今年8月にノースカロライナ大学チャペルヒル校より公衆衛生学修士の学位を取得した後、フィリピンの首都マニラに位置する、WHO のカントリーオフィスで現在に至るまでボランティアとして働いています。その中で、この国のいくつかの公衆衛生プログラムに従事しながら、将来の糧となる貴重な経験の数々を日々積んでいます。特に私は、結核、及び HIV/AIDS プログラムに重点的に携わっています。

まず、国の保健省が主導している結核プログラムは、WHO をはじめ、数多くのグローバルパートナーの支援を受けながら、一日も早い国レベルでの根絶を目指しています。高温多湿の熱帯性気候に独特の種々の感染症や、心臓病や脳卒中といった致死的な非感染性の疾患と比べても、特に結核予防とその早期診断、治療には力が入っています。フィリピンは、世界的に見ても未だ高い結核罹患率、死亡率を誇っており、インドや中国と並び、結核による健康被害を受けている世界トップ 30 カ国にも数えられています。欧米など先進国に比べるとやや見劣りする日本の結核罹患率は、2017 年の厚生労働省統計によると、10000 人中 1.4 人程の罹患率です。それに対し、現在フィリピンは 10000 人中 100 人前後に上る人々が結核に罹患していると推定されています。問題を複雑化している背景として、多くの結核患者が医療機関にかからず、風邪などの軽症と思い込み、そのまま放置したり、自分で対症薬などを購入して対応している現状があります。症状の顕著な悪化による医療機関を受診しないことによる診断・治療の遅れは、その患者の結核治癒だけでなく、家族や地域住民への感染予防にも大きな障壁となります。そのため国は、こうした負の連鎖を断ち切る為、多くの人員と予算を割き、WHO や国際 NGO などのパートナーからの技術的、財政的な支援を受けながら、未診断の結核患者をいち早く治療へ繋げ、半年以上に及ぶ治療をいかに患者への肉体的、精神的、経済的な負担を抑えながら、高い治癒率を目指していくことを、今後数年単位に渡る喫緊の課題としています。

そうした状況の中、私は国の保健省やそのパートナー達が、病院やクリニックのスタッフをどの様に指導、監督し、結核プログラムのゴールへと推し進めているのかということを分析しています。いかにもっともらしい結核治療指針やスクリーニング・診断アルゴリズム等が存在していても、それが医療現場レベルの理解を得て、実践に移されなければ絵に書いた餅です。その為現在は、中央政府からフィリピン国内の各地方自治体レベル、そして結核プログラムを支援している主要パートナーが、医療の現場で国の指針やガイドラインに沿った医療が全うされるため、どの様にその医療スタッフ達への知識伝達や客観的評価・指導を行っているか分析しています。主な手法として、政府や関連組織への結核プログラム担当者にインタビューをしたり、国内結核治療施設のスタッフへのオンライン調査の実施を試みています。最終的に、そこから得られた所見から、現行のシステムの問題点やその解決に向けた改善案などを、保健省やグローバルパートナーへ還元するいくことで、このプログラムの目標達成をバックアップしています。こうした現在の仕事は、感染症予防の観点から、医療政策やそのシステムの解析分野にまたがり、また行政から患者レベルに至るまで、持続可能な貢献に繋がる可能性を秘めています。日々仕事を前進させながら、その一つ一つの工程から、この国の医療をとりまく様々な現状を学んだり、将来的にも必要な、医療政策やシステム分析に関わる背景知識やノウハウも豊富に吸収でき、大変に大きなやりがいを感じながら取り組んでいます。

他にも、医療施設の位置情報と患者の地理的な分布情報を用い作成された地図を元に、結核やHIV/AIDS患者、その感染リスクの高いコミュニティーの住民が物理的、経済的な負担のかからない範囲でカバーされているかといった分析を行うプロジェクトにも携わっており、特にHIV/AIDSの分野でその効果が期待されています。現在フィリピンは、HIV/AIDSに対しても大きな壁に直面しています。罹患率は、南アフリカやナイジェリアなどのアフリカ諸国と比べれば未だ低いですが、その新規感染者率は目を見張るものがあります。主に男性同性愛者や違法薬使用者がハイリスクグループに分類され、近年急速にその罹患率が上昇しており、毎日30人以上が国内どこかでHIVの診断を受けており、国単位での緊急かつ効果的な対応が迫られています。私も、これまでの医療者としての発展途上国での経験や大学院で学んだ知識から、こうした厳しい現状には興味があり、HIV/AIDSに関わるこの地理情報を利用したプロジェクトのほか、HIV/AIDS専門のクリニックが作成したレポートから、患者層の特徴や季節や年度、地域ごとの罹患率の推移を分析し、それら所見のフィードバックや対策の提言などにも関わっています。WHOに本来期待されている、国際社会や現地パートナーの国の健康に関わる技術的な指南役という働きにも、こうして直に輪の中に入ることでその働き方を肌で感じることができています。

以上の通り、参加しているどのプロジェクトも大変仕事としてのやりがいを感じ、この国と協力しながら、患者の為に最大限の貢献を目指し、日夜大変貴重な経験をさせてもらっています。また国内で開かれる、健康や医療に関する様々なジャンルのカンファレンスに参加する機械にも大変恵まれ、更に新たな知識や技術、豊富な人脈を築くことにも事欠きません。今後は、来年1月末までこの仕事を続け、その後はWHOやUNICEFなどの国連組織や国際NGOなどへの参加を視野に入れながら、更に自分のエネルギーと時間を注ぎ込める、国際社会への貢献の場へ身を投じていきたいと考えています。

最後になりましたが、こうして今現在も自分の興味のある分野に没頭しながら、国際的貢献の場に自分を置くことが出来ているのも、新潟ロータリークラブの皆さんから留学の際頂いた温かいご理解、ご支援による所が大変大きいと思う所存です。改めてここに感謝の意を表させて頂きます。いつも本当にどうもありがとうございます。

写真1：政府との結核政策に関する会合

写真2：保健省主催、医療者向けの結核会議

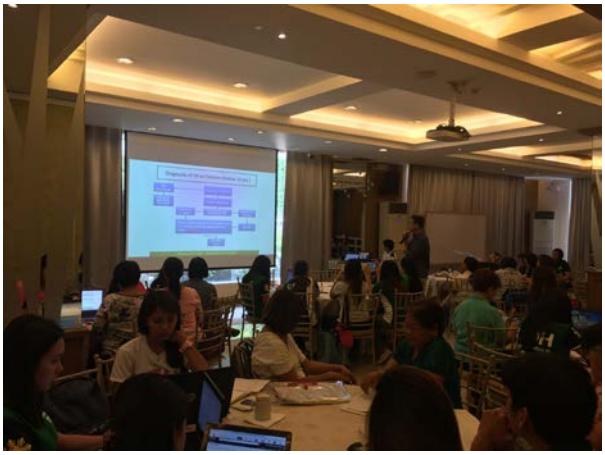

写真3：WHO 最寄りの結核治療センター

写真4：左記治療センターのスタッフと

写真5：夕暮れ時のマニラ市街

写真6：雨季の豪雨で冠水したマニラ主要道路

写真7：職場仲間との夕食

写真8:WHO 見学中の医学生と WHO 地域事務所で